

「人口が減っても、地域は簡単になくならない。だが、小ネタが尽きると、あっという間に地域は衰退する」

(地域の危機・釜石の対応 388 ページより)

森田 哲也 さんと語る

江府町議会議員の森田さんに江府町のこれまで、いま、そして将来について伺います。



昨年の町議会選挙は立候補者が少なく無投票になりました。なぜ候補者が少ないのか？なぜ議員のなり手がいないのか？小さな地方自治体の大きな課題になっています。

元町職員であった森田さんには、いま議員として見える町政の風景がどのように変わったのか？あるいは変わらないのか？議員になられたキッカケやそのご苦労、そして多くの方が町政に関心を持ち、立候補できる仕組みはないのか？など皆で考えればと思います。

江府町の人口は現在 2,695 人 (2021 年 11 月 30 日) ですが 2045 年には 1,268 人 (2018 年 3 月 31 日 日本海新聞) と人口減少が推計されています。人口減少の中で、江府町はこれからどうあるのだろうか。どうぞご参加ください。

日 時：2022年1月23日 (日) 午前 10 時から 12 時

場 所：江府町防災・情報センター 2階会議室

語りて：江府町議会議員 森田 哲也 氏

聞きて：まなびや世話人 前川仁三夫

定 員：15名 参加費：300円

- ◆新型コロナウイルスの感染状況によっては中止することもあります。
- ◆マスク、手洗いをお願いします。体調不良の場合はご遠慮ください。

- ◆12月5日防災／情報センターで開催された「江府町議会・住民懇談会」に参加しました。議員9名全員が参加され、総務経済常任委員会、教育民生常任委員会からそれぞれ報告がありました。参加者からは「いもこ塾」や「町内バスの運行」などについて質問や意見が出されました。また新人議員の感想を聞いたところ「住民の声を聞けば動かないといけない」や「議員報酬が課題か？」などを聞くことができました。しかし限られた時間もあり皆さんのお考えを深く聞くことはできなかったのは残念でした。

- ◆”まなびや”では11月21日「川端 登志一さんと語る」場を持ちましたが、ざっくばらんにお話を聞くことができました。私たち住民が町政や議会を理解するうえでこのような場は大切だと思います。

—建設工業新聞の記者が21日参加し記事にしてくれました、次に添付します—

江府町防災・情報センターで21日、「まなびや」の「谷学舎」主催の「川端登志一さんと語る

町民と行政の架け橋に 川端議員が熱弁振るう

江府町で「語る会」

「会」が開かれ、8人が参加した。会ではコーセン（同町江尾）社長の顔も持つ川端登志一町議会議員が語り手を務め、議員になったきっかけや苦労した話などを参加者に共有した。会は「まなびや」の前川仁三夫氏が質問を投げかけ、川端議員が応える形式と、参加者

と意見を交換する二部構成で進行。川端議員は会の中で「条例で『開かれた町政』を掲げている江府町だが、開かれていてもなかなか入りづらい側面があるため、どうにか改善したい。議会で一般質問をし続けることで、町民が抱える疑問などを広報誌などで活字として町民に伝えることができると意図が汲み取れなかったとしても、町民の皆さんに疑問に思ってもらう機会を増やしていくことが大



川端登志一議員

切だと考え、議員の使命として質問の場を大切にしている。町民だけでなく役場とも一体となって江府町を盛り上げるためにはどうしたらいいか、日々考えながら議員活動にも取り組んでいきたい」と江府町への思いを熱く語った。

同町はソフトバンクと協定を結び、DX推進などにも取り組み始めた。2023年には佐川移住事業の開始も目指しており、若者世帯の移住にも期待が高まる。深刻な社会課題に立ち向かう姿勢が具体性を持ち始めた今、広く町民の声を取り入れた舵取りを実現できるか。今後の動向が注目される。

